

## ボツワナ共和国月報(2021年1月)

### 主な出来事

#### 【内政】

- 夜間外出禁止令の延長
- 段階的な学校の再開

#### 【外政】

- 王毅・中国外交部長の訪問
- クワペ外務国際協力大臣第148回WHO会議参加
- サレク西サハラ「外相」のボツワナ訪問
- マシシ大統領のナミビア訪問

#### 【SADC】

- ボツワナ及びコンゴ(民)がSADC事務局長選挙への候補者擁立
- COVID-19第二波及びワクチン確保等に向けたニュシSADC首脳会合議長声明

#### 【経済】

- 南アからの燃料供給削減の発表
- Tlou Energy 社(豪)のコールベッドメタンプロジェクト順調に進む
- 北西部におけるマラリアの発生
- 12月における年間インフレ率に変化なし
- 10月と比較し、11月の輸出は大幅減

#### 【内政】

##### ○夜間外出禁止令の延長及び再延長

ボツワナ政府は、3日付官報にて、客年12月24日から本年1月3日までとしていた夜間外出禁止令を、1月31日まで延長すると発表した。同期間中、午後8時から午前4時の間を外出禁止とし、外出禁止時間帯に移動するためには、移動許可証(必要不可欠なサービス)が必要となる。また、同期間中の酒類販売及び公共の場での酒類の消費を禁止した。

さらに、ボツワナ政府は、29日付報道発表にて、夜間外出禁止令を2月28日まで再延長すると発表した。

##### ○段階的な学校の再開

モラオ基礎教育大臣は、混雑を避け、保健プロトコルを順守するため、公立学校の再開を2つのフェーズに分けて実施すると発表した。1月12日にスタンダード1、5、6、7、フォーム1、3が、19日にその他の学年が再開し、特別支援が必要な生徒については2月末の再開を予定している。

## 【外政】

### ○王毅・中国外交部長の訪問

王毅・中国外交部長は、1月6日から7日にかけてボツワナを訪問し、マシシ大統領を表敬し及びクワペ保健大臣と会談した。同訪問では、一帯一路協力にかかるMOUが署名された。

### ○クワペ外務国際協力大臣第148回WHO会議参加

第148回WHO会議にて、アフリカ地域代表として演説を行ったクワペ外務国際協力大臣は、アフリカが十分なワクチンを享受する最後の地域になるのではないかと深刻に懸念している旨述べた。また、同大臣は、安価で安全なワクチンに投資し、公平な配分を行うため、早急に全世界で団結する必要がある旨呼びかけた。

### ○サレク西サハラ「外相」のボツワナ訪問

25日、サレクRASD「外相」は、ガリRASD「大統領」の特使としてボツワナを公式訪問し、クワペ外務国際協力大臣を表敬した。両者は二国間関係につき協議し、サレク「外相」はボツワナの西サハラの自決権へのゆるぎない支援に謝意を述べた。翌26日に、同「外相」はマシシ大統領を表敬した。

### ○マシシ大統領のナミビア訪問

29日、マシシ大統領はナミビアを公式実務訪問した。同訪問では、両首脳が議長を務める二国間委員会設立に署名がなされた他、COVID-19のワクチンの調達、運搬、認可制度等について緊密に連携・協力すること、また、ベストプラクティスの共有、COVID-19検査の際の連携、検査結果の相互認証に係る調整等についても合意した。さらに、ボツワナ側からは、昨年11月に発生したボツワナ国防軍による密猟者と疑われるナミビア人を射殺した件につき説明があり、ボツワナ政府は密猟者の射殺措置を認めていない旨説明が行われた。両国は、特に国境河川地帯における合同パトロール等を再開すること、及び、インテリジェンス、国防及び法執行の分野に係る二国間協議を開催することにつき一致を見た。

## 【SADC】

### ○ボツワナ及びコンゴ(民)がSADC事務局長選挙に候補者擁立

21日、ボツワナ政府は、本年8月のタックス現事務局長の任期満了に伴い実施されるSADC事務局長選挙に、マホシ大統領府首席次官を擁立することを決定した。マホシ氏は、大統領府首席次官及び内閣秘書を務めており、公的機関、民間セクターのみならず国際機関で蓄積した豊富な経験及び指導力を有している由。

他方、コンゴ(民)外務省は、ムケラ氏を擁立する旨の報道発表を発出した。同報

道発表によると、ムケラ氏は現在、1996年以来勤務している世界貿易機関(WTO)にて、シニアオフィサーを務めている他、日本の名古屋大学にて、経済、財政及び計量経済学の教授を務めている。

#### ○COVID-19 第二波及びワクチン確保等に向けたニュシSADC首脳会合議長声明

29日、SADC首脳会合議長であるニュシ・モザンビーク大統領は声明を発表し、1月の最初の2週間で、SADC 地域の新規感染者数が34万6,010名に上り、これは、同地域で COVID-19 が確認されてからの感染者数累計の22%にあたり、SADC 地域における大幅な感染拡大及び死者数の急増に警告を発した。また、501.V2と呼ばれる新種のコロナウイルスがSADC加盟国3か国で確認されたと述べた。さらに同声明で、ニュシ大統領は、SADC保健大臣委員会に対して、感染リスクに応じ優先順位をつけた上で、緊急に必要なワクチンを供給できるよう、各国のリソースを動員するための強力な地域協力戦略を立案するよう求め、将来的には、ワクチン研究能力及びSADC地域におけるワクチンの製造能力を開発すると述べた。

#### 【経済】

##### ○南アからの燃料供給削減の発表

13日、マシーレ鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障省次官が、南アの3つの精油所閉鎖により、ボツワナが南アから輸入する燃料の容量が削減された旨を発表した。同省は、削減分の埋め合わせとして、ナミビア及びモザンビークといった別ルートからの燃料確保を開始した。

##### ○Tlou Energy 社のコールベッドメタンプロジェクト順調に進む

Tlou Energy 社(豪)は昨年、ボツワナ電力公社(BPC)と合意し、2MW 規模のコールベッドメタン発電のパイロットプロジェクトを実施しているが、ガスの供給量が安定して増加しており、プロジェクトが順調に進んでいることから、新たなクリーンエネルギーが生まれるチャンスとなりうると発表した。

##### ○北西部におけるマラリアの発生

ンガミランド地区保健チームは、オカバンゴ地区にて65件、ンガミ地区で39件のマラリア発生が確認されたと発表した。同チームによると、COVID-19パンデミックへの対応ですでに疲弊している医療体制により、マラリアへの対応が困難になっているとしている。また、同地区では雨が多く、今後、マラリアの発生件数は増加するとみられている。

○12月における年間インフレ率に変化なし

12月における年間インフレ率は、引き続き2.2%で変化なし。項目別では、家賃、水、電気、ガス等燃料が1.2%、運輸が-0.6%、食糧及びノンアルコール飲料が0.5%。

○10月と比較し、11月の輸出は大幅減

10月と比較し、11月の輸出は16.5%減少(49億4,920万プラ)。主要輸出品目は、ダイヤモンド(32.8%)、食品・たばこ(13.3%)、機械・電子機器(11.5%)。主な輸出先はアジア地域(63.5%)で、その内訳はUAE(24.4%)、インド(23.9%)等。UAE及びインドへの主な輸出品目はダイヤモンド。主な輸入元は南アフリカ(67.1%)、ベルギー(8.9%)、UAE(6.2%)。輸出の輸送手段別では、航空便(91.6%)、陸路(8.0%)、鉄道(0.4%)。